

インフラ分野のDX(デジタル・トランスフォーメーション)を推進し、臨場に係る移動時間の削減や立会の調整時間の削減を図り、建設現場の働き方改革、生産性向上に資する取り組みとして、**建設現場における遠隔臨場を令和3年11月から試行導入**

## 概要

ウェアラブルカメラ等による映像と音声の双方向通信を使用して「**段階確認**」「**材料確認**」「**立会**」を行うもの

- ※ 現場不一致、災害等の報告時でも活用
- ※ 中間検査・完成検査等には適用しない。

## 導入効果

- ・ 受注者：段階確認に伴う待ち時間の削減等
- ・ 発注者：移動時間の削減による効率的な時間の活用(テレワークでも立会が可能)
- ・ 受発注者双方：新型コロナウイルス感染症対策、現場不一致等の情報共有の迅速化

## 費用負担 (機器の賃料や通信料等)

- ・ 発注者指定型：発注者が全額負担
- ・ 受注者希望型：受注者が全額負担
- ※ ただし、新型コロナウイルス感染拡大防止として実施する場合は発注者全額負担(指定型と同様)とする

## 工事成績

生産性向上に効果が認められた場合は、**創意工夫において加点**

## R3年度 実施方針

- ・ 発注者指定型：事務所毎に1件以上実施
  - ※ 構造物など立会の頻度が高い工事や現場までの往復移動に時間を要する(概ね片道30分以上)工事から選定
- ・ 受注者希望型：発注者指定型以外の工事

## <導入イメージ>

現場での受注者による撮影状況



ウェアラブルカメラにより撮影

【ウェアラブルカメラ等】



ヘルメットや体に装着可能なデジタルカメラやスマートフォン、タブレット等のモバイル端末

映像等の配信には無料のWeb会議システム(Webexmeetings等)も使用可能

リモート(遠隔)で監督を実施

執務室での監督職員による確認状況



リアルタイムで映像を確認

※ 導入イメージ：国土交通省関東地方整備局ホームページの公表資料より抜粋